

第64回口腔衛生学会シンポジウム3, 2015年5月29日
東日本大震災後の関係機関における災害時歯科保健医療の取組
～ 大規模災害に備えて ～

「歯科における災害対策の変遷について」

中久木 康一 先生 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野)

「東日本大震災後の岩手県における災害時歯科保健医療の取組について」

森谷 俊樹 先生 (岩手県保健福祉部健康国保課／岩手県口腔保健支援センター)

「日本歯科医師会における大規模災害への取組および現状の体制について」

大黒 英貴 先生 (公益社団法人日本歯科医師会)

「東北大学における災害時歯科保健医療の取組について」

相田 潤 先生 (東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野)

「災害時の公衆衛生 - 健康危機管理支援チームの創設について」

坂元 昇 先生 (川崎市健康福祉局)

「災害時歯科保健医療におけるアセスメントと対応体制の構築について」

北原 稔 先生 (神奈川県厚木保健福祉事務所)

Q: 東日本大震災を経験した歯科医師として、思うところを自由記載してください。

平成26年度宮城県歯科医師の社会活動の関する意識調査から(1)

多くの方々に助けていただきました。震災前以上にしっかりとがんばらねばと思っております。

全国からの支援のおかげでまだ復興中ばとはいえ、復興の道に進むことが出来た事に対する感謝の気持ちを忘れずに、もし他地域に災害が起こったときはその恩返しの気持ちで行動していきたい。

Q: 東日本大震災を経験した歯科医師として、思うところを自由記載してください。

平成26年度宮城県歯科医師の社会活動に関する意識調査から(2)

今回の大震災を通して、大きく見えてきた物の1つに、日本人1人1人が自分の職責を誇りをもって成し遂げている姿だったと思います。私達歯科医も同様だったと思います。

震災前は、社会活動＝面倒なものという認識だったが身元確認等を通して社会活動すべき職業である事に気が付かされたような気がします。

Q: 東日本大震災を経験した歯科医師として、思うところを自由記載してください。

平成26年度宮城県歯科医師の社会活動の関する意識調査から(3)

震災を体験したことで、スタッフや患者さんとのきずなが強くなったと感じています。ただ、診療室が使えないと何もしてあげられない無力感をみんなで感じました。歯科医師というより、個人レベルでそれぞれが困難に打ち勝てるように、努力はしています。

毎日毎日の仕事で、今できる事をいい加減にせずにきちんと患者様にはもちろん自分自身にも納得のいく形で取り組みたいという思いが強くなったように思う。

「東日本大震災後の関係機関における災害時歯科保健医療の取組～大規模災害に備えて～」
第64回口腔衛生学会シンポジウム, 2015年5月29日

Q: 東日本大震災を経験した歯科医師として、思うところを自由記載してください。

平成26年度宮城県歯科医師の社会活動の関する意識調査から(4)

今回、身元確認の検視を経験して、あたり前のことですが、この仕事は、歯科医しかできない事を実感しました。(ただ、本音を言うと、恐ろしいし、怖いし、そういう、思い出やっていたので、とても、人道的、道義的使命感といった言葉は、使いたくありません。ただ、警察官、消防士や殉職された人など、たくさんすばらしい人を見ました。)

Q: 東日本大震災を経験した歯科医師として、思うところを自由記載してください。

平成26年度宮城県歯科医師の社会活動の関する意識調査から(5)

歯科医師の社会活動は大切だと思いますが、今回の震災では被害者でもあり、自分の身を守ること、家族の身を守ること、食料の確保など、生きるためのことが精一杯の時期を過ぎました。身元確認にも行きましたが、1か月後でした。

自分のことで精一杯だったが、みんな同じ状況の中、身元確認作業等に取り組んだ先生方には感謝している。今後、このような緊急時の歯科医師会のあり方、役割分担について準備が必要と感じた。

「東日本大震災後の関係機関における災害時歯科保健医療の取組～大規模災害に備えて～」
第64回口腔衛生学会シンポジウム, 2015年5月29日

Q: 東日本大震災を経験した歯科医師として、思うところを自由記載してください。

平成26年度宮城県歯科医師の社会活動の関する意識調査から(6)

生きていることの有難さ。大切に日々を生きようと思いました。地域に貢献する人生を生きようと思いました。

人はいつか必ず死ぬんだと自覚した事、後で何かをするのではなく、今、刹那を精いっぱい生きる事、人に求めず、生きようと思うようになりました。